

休校期間中の学校の様子

休校期間中の学校は静寂に包まれています。主役のいない遊び場は寂しそうです。



本来であれば、この季節は暖かな陽気に心が弾み、休み時間になると外へ駆け出していく姿が多く見られるのですが、今暫く耐え忍ぶことが求められています。

一方、新緑の季節を迎えたことから、学校の植物達は日に日にその存在感を増しています。



お聖堂前のツツジは今が満開です。



森の奥の藤棚ではフジの花が咲いていました。



桜の木も緑一色です。



シロツメクサ、ヒメジオン、コデマリの共演です。



梅の実も大きくなってきています。



数年ぶりに難波茨(ナニワイバラ)が咲きました。

神様はどんな時でも私達のことを見守り、豊かなお恵みを与えて下さっています。そして、苦しみがあれば共に背負ってくれています。マーガレット・F・パワーズさんが書かれた有名な詩を紹介します。

「Footprints (あしあと)」

ある夜、私は夢を見た。私は、主とともに、なぎさを歩いていた。
暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。
どの光景にも、砂の上に二人のあしあとが残されていた。
一つは私のあしあと、もう一つは主のあしあとであった。
これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、私は砂の上のあしあとに目を留めた。
そこには一つのアシあとしかなかった。
私の人生でいちばんつらく、悲しいときだった。
このことがいつも私の心を乱していたので、私はその悩みについて主にお尋ねした。
「主よ。私があなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道において私とともに歩み、私と語り合ってくださいと約束されました。
それなのに、私の人生の一番辛いとき、一人のあしあとしかなかったのです。一番あなたを必要としたときに、あなたがなぜ私を捨てられたのか、私にはわかりません。」
主はささやかれた。
「私の大切な子よ。私はあなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みのときに。あしあとが一つだったとき、私はあなたを背負って歩いていた。」

このような時だからこそ、日々の祈りの大切さに気付かされます。

学校ではご家庭でも祈っていただきたく、『新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り』という祈りを配りました。

全ての人と助け合って困難に立ち向かえるよう、今も、そして、これからもお祈りを続けてまいります。

